

第5回大船渡市スポーツ施設整備基本計画検討委員会

日時 令和2年10月28日(水) 午後1時30分～午後2時45分
場所 大船渡市役所 2階 議員控室
出席者 委員：11名
大船渡市：協働まちづくり部長、生涯学習課長、生涯学習課長補佐、
スポーツ推進係

〔会議内容〕

◇ 報告事項

- (1) 第4回大船渡市スポーツ施設整備基本計画検討委員会について
→ 意見等特になし。
- (2) 令和2年9月30日開催 市議会全員協議会について
→ 意見等特になし。

◇ 協議事項

大船渡市スポーツ施設整備基本計画（案）について
〈意見・質疑応答〉

- ・ （新沼良治委員）45ページの萱中地区について、民間が利用する計画があると耳にしたが本当か。
→ （生涯学習課長）以前に利活用について県から照会がきたことがあったが、それ以上のことについては、市で把握していない。
- ・ （浅沼道成委員）予算の厳しい中で、今後の大船渡市のスポーツ振興、次なる展開というのか、施設整備で市民の方々に喜んでいただく、市外から人が来てにぎわいが生まれるなどそういう可能性があった上で、この計画なのか。はっきり言えばこの計画は、国のガイドラインに則って評価しました、じゃあそれに基づいてこれこれ整備します、といったストーリーができていて、何も面白みがないというか、せっかくみんなが集まって意見を出しているのだから、もうちょっとそういうのが含まれているといいのかなと思う。私には単純に野球場ありきで動いているようにしか見えない。例えば、盛岡広域では、市民のニーズは圧倒的に体育館、アリーナにある。そこにある程度の規格があればそこに人が集まってきて外から呼ぶこともでき、いろんな可能性がある。残念ながら野球場では、誰が来るのかなと思う。高校野球は来るかもしれないが、高齢者から子どもたちまで含めてどのくらいの夢がここに乗っかるのかなと思う。計画的には問題ないとは思いますが、私の感想としてはこのように感じた。
→ （生涯学習課長）浅沼委員の言うとおりであるが、この計画自体が、インフラ長寿命化計画に基づいて各市町村で所管する分野の個別施設計画を作りなさい、という流れを受けている。計画の形としては、今のところはこういう作りにはしかないのかなと思う。実際に市民体育館の整備を具体的に進めなければならぬ時期になれば、今の市民体育館を中心としたエリアに、複合化した施設の整備の可能性も検討する必要がある段階にこれかからなってくるだろう。ただ、今の段階としては、長寿命化して今後10年間どう施設を維持していくのかということが求められている状況であるので、御理解いただきたい。

→ (浅沼道成委員) 行政の方々を批判しているわけではない。苦しいのはわかるが、発想を変えていただきたい。国の言うとおりにやるだけでなく、そこにプラスアルファを盛り込むのがそれぞれの市町村の特徴だと思う。その辺がないのが残念だなと思っている。今まさにおっしゃった市民体育館のことをちょっとでも計画の中に入れられるといいと思う。検討という言葉は残しているが、もうちょっとこういうことが乗っかってくるといいと思う。昨年の報告書を見ても市民体育館に対する要望がけっこうあったので、それが反故にされるような形はよくないのかなと思う。せっかくいろんな声があったので、それをくみ取った計画という形の方が、皆さん納得されると思う。このままでいくと、市民体育館に対する意見が消えてしまうような気がする。せっかくの意見がもつたない。こういう文言をどこかに入れていただけると、次につながる計画になるのかなと思う。もう時間がないので、検討する余地はないのかもしれない、ただ、次に検討するチャンスを残しておくことは必要。

- ・ (新沼良治委員) 今の浅沼委員の意見に勇気付けられたので、少しお話したい。これまで、最初から検討に含めていただき、私は途中で“夢”の話をさせていただいた。市の苦しみも理解するが、その時の意見が結局「国の指針だから」で押し切られてしまうのかなという感想を受けた。野球場整備の計画は大変ありがたいが、大船渡市のスポーツ振興を考えるとやはり市民体育館の存在が大きい。何回も話してきたが、現状で、県大会や東北大会、全国大会を開催することはできない。中学校の東北大会を開催したというお話は何ったが、それは「被災地だから」とか「当市の競技団体が強烈に推した」とかいう事情だと思う。運営する側が安心して開催できるような、市民が使いたくなるようなそういうスポーツ施設が当市には必要だろうと思う。国の指針も、全ての市町村が全てに則っているわけではないだろう。市町村でできる部分の文言もあるので、その範疇でぜひ検討していただきたい。

今後10年間という計画だが、私は生きていくかどうかはわからないし、人も変わってくるだろう。今回体育館について修正いただいた内容は大変ありがたいが、10年といわず早めに手をつけることができればいいなと思う。

また、「検討する」という言葉は、ありがたいようでありがたくない言葉だと思っている。仕方がないのかなとは思いますが、体育館を建てるのであれば、体育館と野球場を併設して、陸前高田市のような広い駐車場を整備する。防災上も意味があるだろう。ただし、そういう土地がない。土の捨て場所がなければ、その分削った土を高く盛っていけばいいのではないか。今までは、あっちにあの施設こっちにこの施設、と整備されてきたのが今の船渡市の現状なので、こういう機会に先のことを考えて、いい施設を、市民が来たくなるような施設を一つくらい整備してもいいのかなと思う。テニスコートの拡張もいいが、これが船渡市のスポーツ施設だ、と言えるものが示されるといいと思う。

→ (協働まちづくり部長) 体育館については、いただいた意見と同様の声が大きいことは十分承知している。国のガイドラインに従えば、市民体育館は長寿命化扱いである。つまり、まだ利用できるという判断になるが、市民の皆さんの声をお聞きした限りでは、そこでとどめることはできないと考え、方向性としては長寿命化だが施設更新についても検討するとした。皆さんにとっては物足りないかもしれないが、国で長寿命化というところを市としては施設更新に

ついて検討するという内容にしたんだ、ということを御理解いただきたい。この基本計画の上位に、昨年度定めたスポーツ推進計画がある。基本計画のみで皆さんにいただいた意見を全て盛り込んでいくことは難しいかもしれないが、こういった施設整備に係る市営球場や市民体育館について来年度以降、個別に検討を深めるということになるが、検討を深める中で上位計画についても当然見直していくことになる。どれほど期待に応えられるか確約はできないが、見直しを進めていく中で“夢”に触れていくこともできるかもしれないと考えている。いずれ現時点においては、国の方針を踏まえつつも市としては、皆さんの声をできる限り反映できるように留意したということは御理解いただきたい。

- ・（三宅肇委員）前は市営球場更新について、検討だけで10年は長いのではないかと意見したが、今回の資料では市営球場にしても市民体育館にしても一歩踏み込んだ内容に修正されたようだ。市営球場について見ると、検討は計画前期までとなっているようだが、後期には整備する方向と前向きに考えてよろしいか。
→（協働まちづくり部長）少なくとも検討期間をぐっと短縮したので、そこは前向きに捉えていただいて構わない。いずれ、調査・検討した上での判断ということになるので、検討が終わってすぐに、ということは申し兼ねるが、検討のスピードは大幅に早めたいと考えている。
- ・（古座勝利委員）40ページの市民体育館について伺いたい。赤字で、令和10年度まで更新について検討と書かれているが、どう見ても残り18年の耐用年数を待っているというイメージがある。その間にエレベーターを設置してもギャラリーが改善されるということではなく、あくまでも場当たりの整備にしかならないので、内容を見直す必要があるのではないか。それから、市民体育館は実際に東日本大震災で浸水している地域である。県の防災ハザードマップ等で盛川の氾濫等も出てくるものと思うが、そういったことを考えれば、市民体育館は避難施設として重要な役割になってくると思う。ただ単に体育館を更新するだけでなく、もっと安全な場所に、市民が安心して避難できる場所に移転することも含めて、全体を考えていかなければならない。18年の耐用年数にこだわるのではなく、安全性について市としてこういう考えがあって先行投資していくんだ、ということ为国に求めていくことはできないものか。
→（生涯学習課長）まずスポーツ施設の計画を作って、そのあと市全体の計画としてまとめることになる。その中で、防災の観点で重要で高台へ移転した方がいいという考えが出てくれば、当面はあの場所で維持しながらも、市全体の公共施設の在り方を検討していく中で、場所や規模について考えていくということになるだろう。
- ・（浅沼道成委員）今の古座委員の御意見は大変重要だと思う。今のような内容がこの計画のどこかにあれば、市全体の計画の中でも検討されていくだろう。何もないと、このままで終わってしまいそう。スポーツ施設自体が全体の公共施設の検討に乗っからないような気がしてこわいなと思う。具体的にはまだ書けないと思うので、そういったニュアンスを計画に入れ込めるとうまく繋がっていくのかなと思う。今、個別に考えているから繋がっていかない、個別の計画を統合していくことも想定していくと良いと思う。
→（協働まちづくり部長）課長が申し上げたとおり、この基本計画は、市の公

共施設等個別施設計画に繋がっていく下位計画でもある。当然、公共施設全体の観点を考慮した上で整備内容を実施していくことになる。上位計画との繋がりをわかりやすく記述したい。

- ・（鈴木弘委員）我々の所掌事項は、あくまでも「基本計画案の検討」とあるので、基本的にはここまでかなと思う。前回からの修正部分もあり、全体的にはこれでいいのかなと思う。ただ、1番最後の「IX 将来を見据えたスポーツ施設の整備」について、計画全体が「検討」となっているところ、最後だけは「整備」となっている。期待させるような見出しになっているが、文章を読むとニュアンスとしては、「IX 将来を見据えたスポーツ施設の在り方検討」の方が良いのではと思う。それから、46ページの中赤崎地区のメリットの部分について、「敷きならし予定の土地であることから、用地造成に係る費用が極めて少ない。」とある。工事の発注は終わっていると思うが、既に着工しているのか。「敷きならし予定」とするよりは、「敷きならし施工中」とするのが良いか。加えて、「費用が極めて少ない」とあるが、敷きならし工事に2億5千万円ほど見込まれている。誤解を生みそうな表現だと思う。誤解のないように修正をお願いしたい。
→（生涯学習課長）最後のページの見出しについては、検討させていただきたい。敷きならしの部分の記載については、内容について精査したいと思う。
- ・（金野敏夫委員）先ほどお話があったとおり、この検討委員会でやることはここまでなんだろうと思う。評価を受けてこういう整備の方向性を出していく中で、市民の意見も取り入れながら、あとは他の計画との兼ね合いも考えながら検討を進めていくことが市の考え方になるのだろう。計画の背景にあるもの、世の中の現状や今後の変化が重要になってくると思う。限られた歳入の中で、今後の大船渡市のまちづくりを総合計画など大きな計画と合わせて進めていくのだろう。例えば、大船渡市はスポーツに特化して重点的に投資していきますよという考え方であれば、様々なことも考えられると思うが、実際には産業振興や福祉の推進などの話もある。その中でスポーツが及ぼす効果もあるので、一通り整備をしなければならぬというせめぎ合いがあるのだと思う。ただ、今後の世の中の変化に伴って、その考え方も変わっていくのだろう。はっきりわかっているのは人口が減少していくということ。その世の中に合わせてバランス良く整備していくことが必要。例えば代替施設の活用や近隣市町村との連携が重要になってくるのだろうと思う。基本的にこの計画案の考え方としてはこれでいいのかなと思う。
- ・（上関みさ委員）財政的に足りないということは前回もお聞きした。1ページの計画策定の趣旨を思い出していただきたい。この趣旨と市議会全員協議会からの意見、そしてこの検討委員会での意見を、大変だとは思いますが、織り込んでいただきたいと思う。
- ・（谷山誠志委員）検討委員会としてはここまでということのようだが、もっともって大船渡市の武道館やプールの整備が出てこなかったのが不思議に思う。私は野球が専門だが、野球場の整備は、検討しても敷地面積が足りないということなので、今後どうやって進めていくのか気になる場所である。
→（生涯学習課長）野球場の評価の結果とすれば、建替再整備が必要だということになっている。今後、建替再整備に向けて検討を進めていく計画としてい

るわけだが、現在の敷地では狭いので、3つの候補地を挙げてそのどこかに整備する方向で進めていきたいと考えている。

- ・（新沼良治委員）今、場所の話が出たが、45ページの3つの候補地について、長洞地区の緑の部分（未整地の部分）を削って、ここに野球場と体育館を整備してはどうか。整備の時期はずれても構わないが、私はそれがベストなのではないかと思っている。先ほど申した広い駐車場があれば災害の時にも有効だと思う。東日本大震災の時は、旧農業高校跡地を資材置き場にしたり、自衛隊の方々がグラウンドに寝泊まりしたりしていた。1回災害を経験している私たちにとって、そういう場所があれば対応できるのかなと思う。
→（生涯学習課長）長洞地区の用地は総合公園構想の候補地になっており、すでに10haほど市で取得している。平らな部分は4.2haで、土を盛って広げるとい状況ではなく削っていかなければならない土地である。その造成に莫大な経費がかかるため、総合公園構想を断念したという経緯もあるので、これから用地を整備するのは難しいと考えている。できれば今のこの状況で何かに活用できないかと考えている。
- ・（上村弥委員）震災当時のお話をすれば、救援で来ていただいた方々には、あの寒い中でテント生活を余儀なくされたというところもあった。大船渡市民体育館は、3～4メートルの津波が襲い、半壊の状態から修復して今に至っている。あの場所は今でもまだ浸水地域に指定されている。ちなみに、陸前高田市の夢アリーナたかたは、「体育館」という名前を使っていない。総合交流センターという名称にして、災害時の避難場所や後方支援拠点として駐車場をたくさん確保し、体育館を避難所として使えるようにということでこういう形を取っている。大船渡市でも、20年後には人口が24,000人まで減ってしまうという予想になっている。将来を見据えて、どうやって人を呼び込めるか、定住してもらえるかというところを踏まえて、大船渡市に行けば立派な施設があるよね、と言ってもらえるような市営球場や市民体育館を、市全体で多角的に協議しながら、総合交流センター的なものの整備を検討してもらえれば、補助金などの予算取りもしやすいのかなと思う。そういうところも考えて計画を推し進めていただければと思う。
- ・（志田秀香委員）ここまでの話を聞いていて、本当に皆さんのおっしゃるとおりだなと思っている。夢は大事、子どもたちにも必要なものだが、現実もある。何ともしがたい歯がゆさを感じている。これから、日本も岩手県も大船渡市も高齢化が進み人口が減っていく。でも陸前高田市は施設を作っている。隣の釜石市もそのとおりである。そうなった時に、働き手のいないこの地域で、施設を維持管理していく費用を誰が負担していくのか。現実には、そこに住んでいる人たちの負担が増していくということはあるとは思っている。この計画を実施していくに当たっても、市民のニーズを反映しながらもいかに軽減を図りながらやっていけるかを、行政の方々には頭の中に入れておいていただきたい。医療費だって、被災者は免除されているが、保険料そのものが上がっており、結局どこかにしわ寄せが、負担がかかっている。夢と現実とそれらをちゃんと捉えて、財政難も予想されるのだから、きちんと計画を進めていかなければならない。孫や子どもたちに、帰って来いとなかなか言い難い現実がある。市民の方々に負担がかかり過ぎないようにしていただきたいと思う。

- ・（新沼邦夫委員長）個別施設計画の表 24 を見ると、ほとんどがLED化工事のように。環境問題や水銀灯の製造の関係があるのだと思うが、体育館などを長寿命化する際に、市民の方々もいいねと思うのは、衛生設備や健康に関する部分だと思う。そういうところを最優先すべきと思う。特にトイレは重要な設備だと思う。LED化だけでなく、いろんなニーズ・シーズがあると思うので、そういうところを入れてほしい。少子高齢化や人口減少、景気もコロナウイルスの影響でますますひどくなるという見方もある。大変なところもあると思うが、スポーツ施設を利用する方々が安心して、良かったねと思える整備をぜひともやっていただきたいと思う。これまでいろんな要望が出されてきたと思うが、それが市民のニーズだと思う。施設整備、長寿命化するのであれば市民の皆さんに使っていただくことが1番のはず。健康寿命の考え方などもあり、市民の方々にとっても重要な事項になってくるだろう。トイレだけでなく、ニーズ・シーズに合わせた整備を進めていくということをごくかに入れていただければありがたい。

皆さんの話を聞くところでは、基本計画の策定ということで言えばここまでかなという意見が大半であった。委員の皆さんからは様々な意見をいただいて、長寿命化の中でも少しでも良くなるような改良・改善が必要なのではないかと考えている。ぜひその辺を反映させていただきたいと思う。

先ほども申したとおり、基本計画としてはこのような書き方、もしくは浅沼委員から意見があったように、夢のある形の記載も必要だということをご事務局にお願いし、皆さんから出た意見をできるだけカバーするような計画にさせていただくことで、本検討委員会としては良しとしたいが、いかがか。

→ 意見等特になし